

## 特許抄録

第十九卷第十號 昭和八年十月

## クロムセメント

(特許第 101604 號, 出願 昭和 7 年 7 月 7 日, 公告 昭和 8 年 1 月 30 日, 特許 昭和 8 年 6 月 17 日)

發明者 近藤清治氏, 吉田博氏

特許權者 東京工業大學長

本發明はアルミナ又は酸化鐵の一部分を酸化クロムで置換した石灰質セメントであつて、高強度セメントを目的とするものである。

## アスファルト舗装方法

(特許第 101774 號 出願 昭和 7 年 4 月 9 日 公告 昭和 8 年 3 月 31 日 特許 昭和 8 年 6 月 28 日)

特許權者(發明者) 榎井萬助氏

本發明は熔融アスファルトに粉末状マグネシヤ・セメントを混和する事を特徴とし、これに加熱した砂、砂利及び土壌を保熱状態で混煉したものを路面上に舗設するアスファルト舗装方法であつて、アスファルトの軟粘性とマグネシヤ・セメントの吸濕硬化性とを適當に配合利用し、これに依つて従來のアスファルト並にコンクリート舗装の缺點を除かんとするものである。

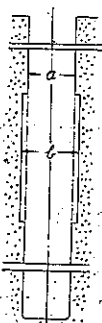
## 鑿孔崩壊局部防止法

(特許第 101778 號, 出願 昭和 7 年 7 月 30 日, 公告 昭和 8 年 6 月 27 日, 特許 昭和 8 年 6 月 28 日)

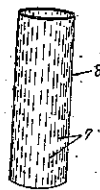
特許權者(發明者) 鹽田岩治氏

本發明は鑿孔作業中地層が崩壊して掘進不能に陥つた場合に掘鑿工具を地上に引揚げて崩壊土砂を浚つた後該箇所を擴孔機で他の部分  $a$  より稍々大きい直徑  $b$  に擴大し(第一圖参照)、然る後周圍に多數の千鳥狀切欠  $7$  を有する局部ケーシング  $8$  (第二圖参照)を前記擴孔位置迄挿入し(第三圖参照)、次に該ケーシング  $8$  を適宜の擴管機  $9$  でその直徑を擴大させケーシングが前記の擴孔部内に壓出定置させる工法である。

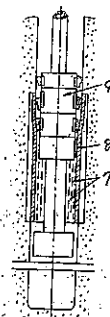
第一圖



第二圖



第三圖



## コンクリート杭製造装置

(特許第 101843 号, 出願 昭和 7 年 1 月 21 日, 公告 昭和 8 年 3 月 10 日, 特許 昭和 8 年 7 月 3 日)

特許権者(発明者) 小濱宗太郎氏

本発明は内外両管を使用し、内管の内部からコンクリートを注入し、且つ内管で外管内に排出されたコンクリートを搦固めて杭を製造する装置に関するものである。

圖面に就て本発明を説明すれば、(第一圖、第二圖及第三圖参照)内管 2 の下端は拱狀のコンクリート排出口 4 を前後両面に有し、その底面には略々小判形 5 をした頑丈な搦固部材 3 を固着してゐる。この搦固部材 3 はその上部に楔形突起 6 を有し、これに依つて内管 2 の管徑を二分し、その下端は中實體と成つてゐる。

これを使用するには先づ内外両管を所要の深さ迄打込んだ後、内管 2 を少しく引き揚げその頂端からコンクリートを注入する(第四圖参照)。然る時はコンクリートは開口部 4, 4 から外管 1 内に排出せられて底部に堆積する。

これを搦固部材 3 の底面 5 で搦固めて壓縮した後、外管を少しく引き揚げる(第五圖参照)。斯くてこの操作を反覆し第六圖の如き杭を構成するのである。

第一圖

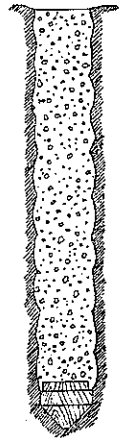
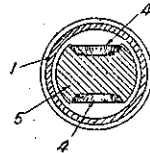
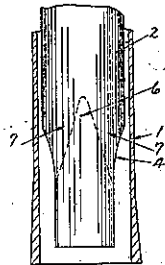
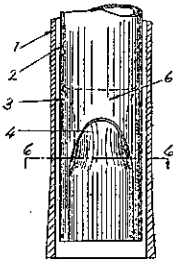
第二圖

第三圖

第四圖

第五圖

第六圖



## 舗装軌道

(特許第 102035 号, 出願 昭和 7 年 2 月 23 日, 公告 昭和 8 年 3 月 17 日, 特許 昭和 8 年 7 月 19 日)

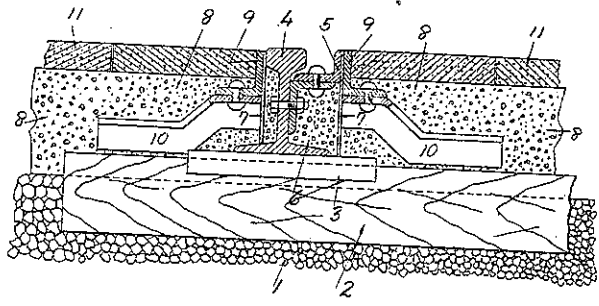
発明者 宮崎君藏氏

特許権者 大日本アスファルト工業株式会社

本発明は、軌條部と路面舗装部とを絶縁する事を特徴とするもので、これを第一圖に就て説明すれば基礎路盤上に定置した枕木 2 上に溝形軌條又は I 型軌條 4 と山形鋼 5 とを結合した合成溝形軌條を載せ、該軌條の兩側の凹面内にコンクリート 6 を填充し、その兩外側面にはこれと絶縁する適當な層 7 を設け、その外側に路面舗装

を行ふ。又前記の溝形軌條の上端両側には絶縁層7を挟んで山形鋼9の一面を適合し、他の一面を數個の支持脚10に連結させ、この支持脚10をコンクリート8中に埋設するものである。

第一圖



### 土 壤 の 處 理 法

(特許第 102042 號, 出願 昭和 7 年 7 月 15 日, 公告 昭和 8 年 3 月 15 日, 特許 昭和 8 年 7 月 19 日)

特許權者(發明者) 淺野貞次郎氏, 淺野誠二氏

本發明は耕土を除く一般の土壤にその成分に依つて一定量の稀薄硫酸を散布して少々濕潤性を帯びしめ、次に消石灰を加へて硫酸基を中和し、更にこれを低温度に乾燥燒成する土壤處理法であつて、普通の土壤の壓搾に依る硬化を可能ならしめ、これを鋪裝用その他に使用の成形物(煉瓦製品)の原料に供し得る様にすることを目的としたものである。

### 消 防 用 河 水 堰 止 器

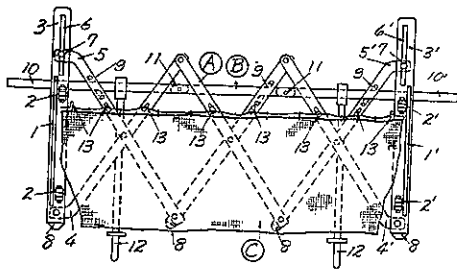
(特許第 102125 號, 出願 昭和 7 年 8 月 27 日, 公告 昭和 8 年 4 月 14 日, 特許 昭和 8 年 7 月 26 日)

特許權者(發明者) 木下喜一郎氏

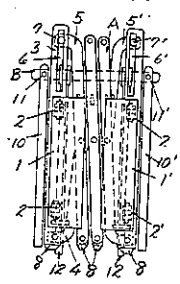
本發明の河水堰止器は收縮伸張が出来、而かも水のため押流されない様にしたものである。

圖中の符號を説明すれば、A はレーダー・トング、B は横杆、C は堰止布、1, 1' は使用時に河の兩岸に接觸する袖弁、8 は土中喰込用の止爪、12, 12' は器體支持用支脚である。

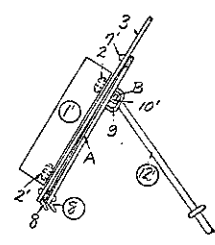
第一圖



第二圖



第三圖



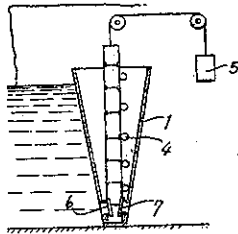
## 制水門扉装置

(登録實用新案第 181320 號, 出願 昭和 6 年 6 月 20 日, 公告 昭和 8 年 4 月 1 日, 登録 昭和 8 年 7 月 1 日)

新案権者(考案者) 神原信一 郎氏

本案は第一圖, 第二圖に示す様に水壓を受ける門扉の側板 1 は下方に向つて傾斜して V 状の中空匣體を形成し, その前後兩側板 1 には夫々弁 6, 7 を設け一方が開く時は必ず他方が閉じる様にし, 門扉の主支持骨 3 の兩端と支持溝 3 の間には適當なローラー装置 4 を配置したものである。水門扉の昇降に當つては弁 6, 7 を開閉して門扉内の水位を下流又は上流の水位と一致させるのであるが, 側板 1 は傾斜してゐるからこの角度を適當にすれば, これに働く水壓力の垂直分力を利用して水平分力に基く摩擦抵抗を消滅させる事が出来, 尙均衡重量 5 を適當に加減する時は大水門でも人力操縦が出来る事になる。

第一圖



第二圖

